

# りんご早生品種 目揃い会

2024年8月26日

奥州農業改良普及センター

J A岩手ふるさとりんご専門部

## 1 満開日を基準とした収穫目安

「さんさ」は、満開後115日頃、「きおう」、「つがる」は満開後115～125日頃を収穫の目安とする。

表1 満開日を基準とした収穫期予想

地区	満開日		収穫目安	
			満開後115日	満開後125日
平場（前沢稲置）	今年	4/26	8/19	8/29
	前年	4/26	8/19	8/29
	平年	5/2	8/25	9/4
中間（江刺樽輪）	今年	4/26	8/19	8/29
	前年	4/26	8/19	8/29
	平年	5/4	8/27	9/6
山手（江刺伊手）	今年	4/29	8/22	9/1
	前年	4/29	8/22	9/1
	平年	5/6	8/29	9/8

※満開日、満開後日数は、生育診断圖等の「つがる」の値

※平年値は、H26～R5年の10年平均

## 2 果実品質からみた収穫の目安

以下の地色・表面色指数、糖度、硬度、ヨード反応指数を参考にして収穫時期を決定する。

表2 果実品質から見た収穫目安

品種	地色・表面色指数	糖度 (%)	硬度 (ポンド)	ヨード反応指数
さんさ	2～3 (ふじ地色 CC)	13～14	13.5～14	2～3
きおう	2.5 (きおう表面色 CC)	13以上	13～14	2～3
つがる	2～3 (ふじ地色 CC)	12～14	13～14	3～3.5

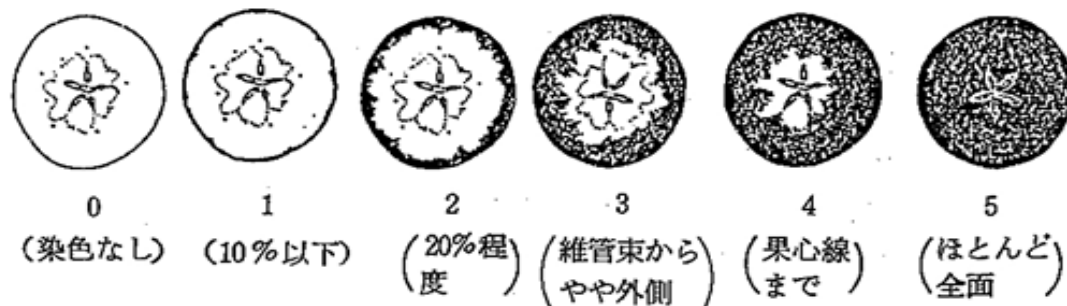


図1 ヨード反応指数 (ヨード・ヨードカリ液によるデンプン反応の指数)

### 3 果実の成熟状況（つがる）

平年と比較し硬度は低く、糖度は平年並み。ヨード反応指数の低下は平年並み～やや早い。

表3 「つがる」の果実品質の変化

場所	調査日	年次	果重 (g)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	ヨード 反応指数	地 色 (カーチャート)	種子色着色 割合 (%)
前沢 稲置	8/21	R6	237	14.8	11.9	4.0	1.0	90
		R5	245	14.5	13.9	3.3	1.3	73
		R4	238	15.2	11.2	4.0	1.5	75
		平年	224	15.7	12.0	4.0	1.2	69
	9/1	R6						
		R5	283	13.2	14.1	2.7	1.7	93
		R4	248	15.5	12.8	3.5	2.0	97
		平年	263	14.4	13.2	3.1	1.8	94
江刺 広瀬	8/21	R6	239	14.7	10.7	4.0	1.0	77
		R5	217	15.1	10.7	4.5	1.0	40
		R4	248	15.0	10.2	4.3	1.2	43
		平年	213	16.3	10.5	4.5	1.1	31
	9/1	R6						
		R5	264	14.4	12.1	3.6	1.5	83
		R4	258	14.3	11.0	3.5	1.5	80
		平年	254	14.8	11.5	3.9	1.3	71
江刺 伊手	8/21	R6	234	17.2	11.4	4.3	1.3	83
		R5	221	16.4	12.7	4.3	1.5	63
		R4	241	15.8	11.4	4.3	1.7	57
		平年	223	17.1	11.6	4.5	1.3	47
	9/1	R6						
		R5	273	15.4	12.9	4.0	2.2	95
		R4	294	15.8	15.8	3.8	2.2	87
		平年	257	16.1	12.5	4.2	1.7	83

※平年は、R1～R5年の平均値

### 4 収穫作業上の留意点

#### (1) 品種共通

- ア 使用した農薬の使用時期（収穫前日数）を必ず確認したうえで収穫する。
- イ 早生品種は、収穫当時の果実温度が高く、果実自体の呼吸による養分の消耗が大きい。鮮度を維持するため、収穫は果実温の低い時間帯（午前中）に行うことが望ましい。
- ウ 収穫果は直射日光に長時間当てないように管理し、できるだけ早く出荷する。
- エ 雨天時の収穫は極力避ける。また、収穫かごやコンテナを地面に直接置かない。

## (2) さんさ

ア 地色の変化は特徴的で、やや未熟な段階では白味を帯びた緑色のため、「ふじ」のカラーチャートの色調に合致しない。しかし、収穫適期に入ると白色が消えてカラーチャートの色調(指数2～3)に合致するようになる。

イ 着色が良くても収穫時期が早すぎると、酸味、デンプン臭が強く食味が劣るため、食味を確認してから収穫する。また、収穫時期が遅くなると果肉障害(ゴム症)の発生が多くなる傾向があるので、適期に収穫する。

## (3) きおう

ア 「きおう」用表面色カラーチャートでの比色は、陽光面と陰光面の中間で行う。果皮色に黄緑色が少し残っているうちに収穫する。

イ 内部裂果(浮き皮)などの障害果は正常果よりも早く成熟する。正常な果実に障害果が混入しないよう、本格的な収穫を開始する前に障害果を収穫する。

ウ 熟期が不揃いな品種なので、成熟期に達した果実からすぐりもぎを行う。

## (4) つがる

ア 着色を待ちすぎて収穫適期を過ぎると、急激に果実軟化、油上がりが進むため、地色に緑色が残っているうちに収穫する。

イ 熟期が不揃いな品種なので、すぐりもぎを徹底する。すぐりもぎを行うことで、残った果実の成熟も促進される。

## 5 病害虫防除

### (1) 褐斑病

県内全域で平年の同時期に比べて発生が多い状況(特に県南部)。発病が確認された場合は、速やかに防除暦に記載のある効果の高い薬剤で防除する。前年多発園では、発生の有無にかかわらず、速やかに特別散布する(詳細は8/14 発出「病害虫防除速報No.13」(次頁)参照)。

### (2) ハダニ類

園地をよく観察し、発生が多い園地では、速やかに防除を行う。ナミハダニは9月中旬以降、越冬成虫(オレンジ色)が出現し薬剤が効きにくくなるため、越冬成虫が出現する前までに防除する。

### (3) その他の病害虫

防除暦に従って防除する。散布間隔が空きすぎないように留意する。

### 🍎普及センターよりコメント🍎

- ・R5 年は、通常では収穫前落果しにくい品種でも落果が見られました。過去に落果がみられた園地・品種では、こまめに観察し、落果の兆候が見られる場合には早急に落果防止剤散布を検討しましょう。収穫前日数には十分注意です!
- ・普及センターで実施している果実品質調査(10日ごと)の結果は、選果場に掲示しているので、確認をよろしくお願ひします!
- ・農作業事故・熱中症に注意して作業をお願ひします!

## 褐斑病の発生が県内で広くみられています。 発生が確認されたら、速やかに特別散布を行いましょ。

### 現在の状況

- 8月前半の巡回調査では、発生園地率は25.8%（平年15.2%）で平年よりやや高かった。また、発生程度中以上の発生園地率は19.4%（平年8.2%）で平年より高かった（図1）。
- 地域別の発生園地率は、県中部で26.7%（平年20.0%）、県南部で36.4%（平年14.5%）で、平年より高かった（図2）。

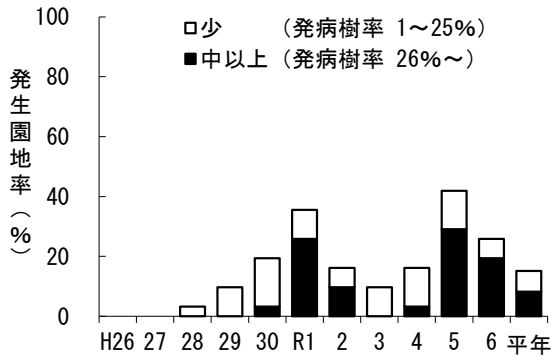


図1 褐斑病の発生園地率の年次推移（8月前半）

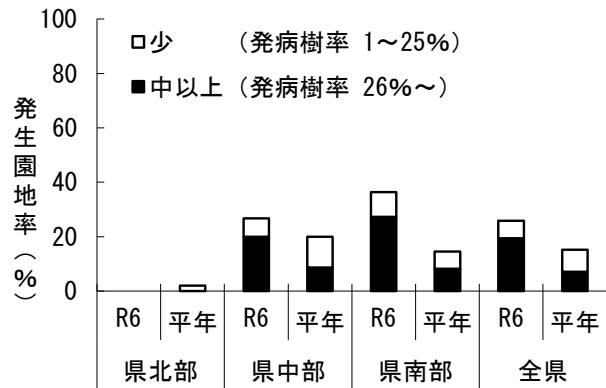


図2 褐斑病の地域別発生園地率（8月前半）

### 防除対策

- 定期的に園地をよく観察する。黄変葉や褐色の病斑葉が確認されたら、付近の葉を含めて観察する。本病であれば、病斑や病斑付近の緑色の部分に黒色虫糞状の粒々（分子子層）が必ず観察される（図3）。
- 本病の発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。
- 前年多発園（前年秋期に黄変落葉が目立った園地）で、本年、これまでに本病を対象とした特別散布を実施していない園地では、発生の有無にかかわらず、速やかに特別散布する。



図3 褐斑病の病斑（黒色虫糞状の粒々が特徴）

### ☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

#### 【利用上の注意】

- 本資料は、令和6年8月7日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- 農薬使用の際には、（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

